

《清里ミーティングを10倍楽しむためのガイドブック》

清里ミーティングを
10倍楽しむためのガイドブック



まえがき

ようこそ、日本環境教育フォーラム清里ミーティングへ！

この冊子は、清里ミーティングに参加される方向けにこの場所で、より多くのものを持ち帰っていただくための簡単ガイドです。

清里ミーティングのキーワードは、

「人と人 思いと思いが会うことで

新しいことが動きはじめます。」

たくさんの人・思いとの出会い・情報や知恵・元気と活力・新しい
ヒントや可能性・・・

どうぞ、たくさんのもので持ち帰ってください。



目次

1.清里ミーティングとは	-----	3
2.清里ミーティング参加心得	-----	4
3.当日までの流れ	-----	5
4.交流のためのいろいろなアイテム	-----	6
5.使いこなそう各種コーナー	-----	7
6.プログラムごとの簡単ガイド	-----	8
7.こんな裏技も！	-----	11
8.主なネットワーク団体組織・学会	-----	12



1.清里ミーティングとは

○清里ミーティングのはじまり



清里ミーティングは、1987年9月、自然体験・野外教育・環境教育に関心を寄せる人たちが山梨県清里に集まり「第1回清里フォーラム」を開いたことからスタートしました。（第2回目から「清里環境教育フォーラムと改称」）

現在は持続可能な社会に貢献するひとづくりを目指した学び合いの場として、継続して実施しています。

○開催趣意

このミーティングは、主に下記の3点を全体のテーマとしています。

1. 最先端の情報や手法を学ぶ場を提供し、参加者の活動をエンパワメントする
2. 参加者同士のネットワークを構築し、協働を促進する
3. 1、2をもって持続可能な社会に向けて行動する人を増やす

清里ミーティングの最大の特徴は、参加者の皆様が“主役”であることです。どんなことについて話し合い、共有し合うのか、参加者主体でつくり上げていくという性格を持っています。主催側で企画したプログラムのほかに、参加者の皆様の中から、プログラムを企画・実施して下さる方を募ります。

2015年に国連で採択された「持続可能な開発目標（SDGs）」によって、私たちが2030年までに目指す社会の姿が示されました。では、その社会を構成していく人材は、どのようにして育てることができるのか。

環境教育がこれまで取り組んできた「持続可能な開発のための教育（ESD）」とSDGsの接続は、その問いの重要なキーの1つです。学校教育、環境教育、社員教育、家庭教育など、様々な“教育”の先には、SDGsの達成につながる要素がきっとあるはず。他者と「競争」するのではなく、多様なステークホルダーと「共創」できる人材を生み出す教育のヒントを、清里ミーティングで一緒に探っていきましょう。

2.清里ミーティング参加心得

自分から動く人ほど、たくさんのものが得られます
自分の目的を明確に
無理せず自分のペースで

○自分から動く人ほど、たくさんのものが得られます

情報は発信する人の元に戻ります。このミーティングで一番たくさんのものを得て帰るのは、各種参加者企画にどんどん手をあげて実施していく人であり、自分から積極的にいろいろな人にアプローチしていった人です。

自分のキーワードや立ち位置をどんどん発信していきましょう。このミーティングは、この場限りで終わりのものではありません。新たな協働と一歩を踏み出すためのスタート地点です。

○自分の目的を明確に

あなたは、このミーティングに何を求めてやってきましたか？

「幼児教育をキーワードに情報交換できるネットワークを作りたい」

「最近の環境教育の動向を知りたい」

「現場の実践者の生の声をたくさん聞きたい」「就職先を探したい」・・・

参加者ひとりひとり、このミーティングに集まる目的は異なります。

自分が何を求めてこの場にやってきているのか、ご自身の目的意識を大事にしてください。

○無理せず自分のペースで

清里ミーティングは、たくさんのプログラムやその場で「こんなキーワードで話そう」などの新しい輪がどんどんうまれてくる場です。

夜も遅くまで多くの方が交流をしています。

でも、全てのプログラムに参加するかしないかを選ぶのはあなた自身です。

「ちょっと、今日はゆっくり部屋で休もうかな」

「話し疲れちゃったから、ポスターでもゆっくり見るか」

「この時間はプログラムに参加せず、ちょっとお散歩でもしよう」

交流は全体の場で、部屋は休む方のスペースとなっています。

自分のペースで、無理せずに。

※ただし、全体会や全員参加と書かれているプログラムには、是非ご参加ください。

3.当日までの流れ

以下のことをお願いしています。まだの方は、至急手続きをお願いします。

ワークショップ参加希望の返信

1 日目の午後に「体験型ワークショップ・1（90分）」、2 日目の午前に「対話型ワークショップ（150分）」、午後に「体験型ワークショップ・2（90分）」がそれぞれ行われます。

どのワークショップに参加するか事前にエントリーが必要となります。プログラム紹介を読み、それぞれ第1希望、第2希望を決めて、現地開催事務局へご返信ください。

※定員のあるワークショップに関しては先着順となっています。

満員となっているワークショップ等の情報は、現地開催事務局までお問い合わせください。

参加費のお支払い

参加費の事前入金をお願いしております。

まだの方は銀行振込にて至急お振込をお願いいたします。

詳しくは事前資料第一報、または第二報をご確認ください。

荷物の郵送など

事前にワークショップ備品やポスター展示物などを郵送希望の方は「清里ミーティング現地開催事務局気付」と明記の上、下記までお送りください。

〒407-0301 山梨県北杜市高根町清里 3545 山梨県立ハケ岳自然ふれあいセンター宛
11月14日（水）必着 になるようにお送りください。

当日に向けての作戦を立てる！

お申込みいただいた方には、参加者プロフィール集をお送りしています。

参加者プロフィール集を見ながら、どんな人とネットワークを作っていきたいのか、どんな交流をしたいのか、作戦を考えてください。そして当日・・・ 元気な顔でお越しください！

4.交流のためのいろいろなアイテム

名札

参加証でもある名札は、交流のためのキーアイテム。自分のキーワードを目立つように書き込みましょう。紐の長さを調節して、顔のすぐ下の位置にしていると相手にも見やすく、話しかけるきっかけになります。相手の名札のキーワードも要チェック。

名札の色も参加回数によって、色分けをしています。当日会場にてご確認ください。

また、日本環境教育フォーラムの役員や会員の方には名札の紐にシールを付けさせていただきます。運営スタッフは黄色い名札をしてスタッフジャンパーを着用しています。

お困りの際にはお気軽に声掛け下さい。 ※詳しくは第二報をご確認ください。

名刺

参加者はスタッフを合わせると 200 名程になりますので十分に準備しておきましょう。名刺交換は、まずは出合いのきっかけ作り。アピールできる名刺だとなお good。自分の所属する団体のパンフレットや自分の簡単なプロフィールをまとめたものを用意するのも良いです。

プロフィール集

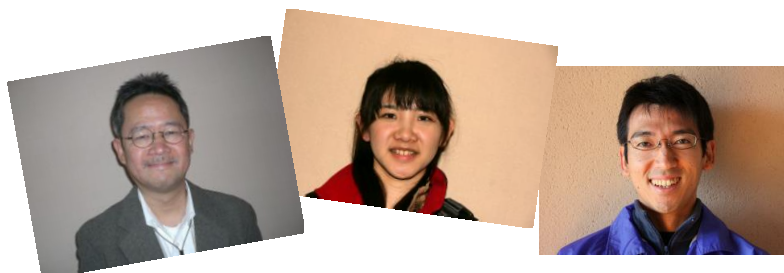
事前に送られてくるプロフィール集は是非、チェックしてください。「この人と話してみたいな」「このキーワードはおもしろそう」「同じ地元の人だ」など、チェックしておくチャンスが増えます。また知り合った人のプロフィールを後で見ると、新しい発見があるかも。

当日資料

当日受付で配られるこの資料に、スケジュール及び地図、詳細情報がすべて載っています。いつ、どこで何をやっているか知るにはまずはこれ。迷ったらまずは、この冊子をみるか、近くの人に声をかけてみましょう。また会場の地図はみなさんの名札の中にも挟んでありますのでご活用ください！

顔写真

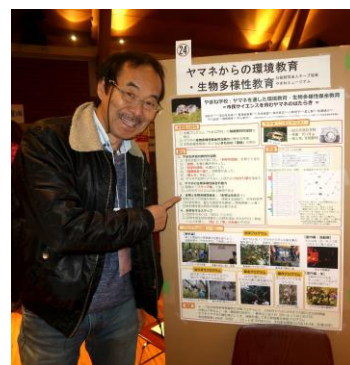
「この人と話がしたいんだけど、顔がわからない」そんな方のために、主会場である清泉寮新館ホールでは、受付にて撮影させていただいた顔写真を名前つきで会場に掲示しています。お話をしたい相手を探す際にご活用ください。またこれらの顔写真はミーティング終了後に名簿として整理をしてみなさまにお配りいたします。期間中にお会いした方々を改めて確認する際にお役立てください。



5.使いこなそう各種コーナー

ポスターセッションブース 会場：黙想館

全国のさまざまな活動団体のポスター展示ブース。2日目には展示団体の方が実際の活動を紹介する時間も設けています。事前資料にリストがあるので、あらかじめ自分の活動地域や興味のある団体を探してみてもいいでしょうか。



情報ボード&自由掲示板 設置場所：新館ホール（メイン会場）出口付近

事務局からのさまざまな情報が載ります。「宅配便が届いています」「会場の変更します」など、通る時には是非チェックを。1日目の夜には、参加者の顔写真一覧が掲載されますので、「〇〇さんってどんな人だろう？」と人探しをする時にも役立ちます。

自由掲示板には、事務局や参加者からの臨時情報が載ります。「〇時から××で△△について語ろう！」「こんな情報もとめているけれど知りませんか」などのいろいろな情報を参加者の皆さんからも載せられます。移動の時などに立ち寄って確認をしてみてください。

環境教育リクルートコーナー 会場：新館ホール（1日目&2日目交流会時）

環境教育の分野で働きたい！人材がほしい！という方のための就職活動支援コーナー。研修生・実習生から職員の募集まで各種求人情報と「こんな人材いませんか」の求職情報が掲示できます。コーナーでエントリーすると、求職の方は魚マーク 求人の方は網マークを名札に入れます。そのマークを目印にどんどん話しかけてみましょう。



また今年も交流会の場でのマッチングタイムがあります！

直接自分自身や活動をアピールするチャンスですので、ぜひご活用ください！

BAR

ちょっとのどが潤うと、いろんな話にも花が咲きます。夜の情報交換会の時間に、アルコールやおつまみなどをご用意した簡単なバーを開設しています。それ以外にもぜひ「お国自慢」をお持ちいただき、それをネタにいろいろな人と語ってみてはいかがでしょうか？

出合いのコーディネーター 人と組織の紹介所（コンシェルジュデスク）

夜の情報交換会の会場で、日本環境教育フォーラム理事をはじめとした日本の環境教育に広く精通しているメンバーが、時間ごとに交代で担当しています。多くの人が集まる会場で、話したい人を見つけることができなかつたり、話の輪に入ることが難しかったり…。そんな時「この人と話したいけど、どこにいますか？」「こんな相談に乗ってくれる人は誰ですか？」など何でも聞いてみてください。きっとキーパーソンやオススメ情報を教えてくれるはず。

フォーラムショップ

期間限定のショップ。参加団体独自の本や教材・グッズが目白押し。ちょっとぶらっと立ち寄ると何か気になるグッズがあるかも?!最近では、有機栽培米や国産小麦の自家製うどんなど、農作物を販売していることもあります!開店時間は出店団体によって異なるので当日にご確認ください。



6.プログラムごとの簡単ガイド

1日目

○受付(10時30分～) 清泉寮新館・フロント前

10:30より随時受付を行っております。昼食のことなども考えて早めに到着されることをオススメします。ご到着されましたらまずは受付へお越しください。当日資料や名札等受け渡しをいたします。また、受付後、交流のための顔写真の撮影にご協力をお願いします。手荷物は、チェックインまで荷物置き場に置くことができます。今年には新館レストランにてカレーライスを販売しています。



○ちょっと早めに到着された方の先取り交流会

(11時00分～11時30分)

「たくさんの方が来る場所でうまく交流ができるかな?」

「せっかくだから様々な人達とつながりたい!」

そんな不安や期待をお持ちの方は、是非ご参加ください。

開会式前に、どんな人が集まっているのか、様子がわかる時間です。

後々、「あっ、あの時ご一緒だった・・・」ということが話のきっかけになることも。

開催場所は当日、受付にてお知らせいたします。



○開会式・全体会1

「SDGsがもたらす共創の可能性」のタイトルで、ゲストからの話題提供を行います。

○体験型ワークショップ・1

ご自身が実践されている、あるいはこれから実践しようとしている活動を紹介することを目的とした、アクティビティ中心のワークショップです。ここで一緒になった人は、同じワークショップに関心のあるもの同士。その後の情報交換にもお役立てください。

○食事

基本的にはビュッフェスタイルです。食事も大事な交流の場。まずは少しお腹を満たしてから、いろんな人に話しかけてみましょう。

それぞれの名札のキーワードに会話の糸口があるはずです。



○情報交換会

平行してのプログラム（出会いのコーディネート 人と組織の紹介処）や求職・求人コーナーもご利用ください。休みたい人は休む・話したい人は話す。自分のペースで。

23：00以降はハンターホールに会場を移動して、朝まで話し込むのもOKです。



2日目

○早朝ワークショップ

情報ボードにて参加募集を行います。参加はサインアップ方式の先着順です。希望する人は1日目の21:30までに名前を記入しましょう。内容は事前資料第2報に記載いたします。もちろん、ゆっくり休むもよし、1人で散歩するもよしです。



○対話型ワークショップ

持続可能な社会を目指したひとづくり（未来を変える教育）に向けた新たな視点の獲得や、課題解決へのビジョンの創造を目的とした、ディスカッション中心のワークショップです。

○全体会2

「パートナーシップで未来を変える！」のタイトルで、ゲストから話題提供を行います。3日間の中日として、残りの期間をどう過ごすか整理します。

○体験型ワークショップ・2

ご自身が実践されている、あるいはこれから実践しようとしている活動を紹介することを目的とした、アクティビティ中心のワークショップです。

○ポスターセッション

新館ホールにて、事前にお申込をいただいた方々によるポスターセッションを行います。実際にポスターの前に発表者が立って活動を紹介する時間もありますので、あらかじめ自分が聞きたいポスターセッションを確認しておきましょう。日本全国の様々な事例や取組から、ご自身の活動のヒントが得られること、間違いなしです！

3日目

○当日募集ワークショップ

「こんなテーマで話してみたい」「ワークショップでの話題を深めたい」「こんなネットワークを作っていきませんか？」など、受付にてエントリーしていただき、少人数でいろいろとディスカッションしていく時間です。興味のあるテーマにいくもよし、自分でエントリーするもよし、ここで出会ったつながりを今後につなげていけるように有効にお使いください。

○全体会3・閉会式

3日間のまとめの時間。清里ミーティングで得られたこと、自分の関係施設や生活の場に持ち帰ること、いろいろ整理をするための時間です。



○さよならパーティー

立食パーティーです。出会いを逃してしまった人、つながった人と交流できる最後の時間。名刺交換だけでもしておくとも今後新たな展開を生むこともできます。

8.こんな裏技も！

○後泊の割引

ミーティング終了後、引き続き後泊される方は、清泉寮にて特別の割引が適用されます。もう1泊して、清里や周辺に足を伸ばすのはいかがでしょう。

○男女同室の部屋割りも可能です

御夫婦など家族と一緒に宿泊したい、団場で夜打合せを行いたいので同じ部屋にしてほしい等、特別の希望がある場合は、可能な範囲で対応いたします。ご希望の旨、お知らせください。※部屋数に限りがありますので、すべての要望をお受けできないことがあります。

○期間中、部屋貸しいたします

期間中、打合せや商談その他のスペースをお貸しいたします。

「2日目●時～●時 10名」など事務局までお申し付けください。

※参加者の人数によってはご用意できない場合もございます。

○困ったことは何でも現地開催事務局にご相談ください

「思ったより寒く上着がほしい」「会社からの荷物を受け取りたい」……。

どんな些細なことでもお困りのことがございましたら、まずは事務局までご相談ください。できる限りの対応をさせていただきます。

9.主なネットワーク団体組織・学会

●一般社団法人日本環境教育学会

環境教育に関する研究及び実践の推進を目的とする学会

<http://www.jsfee.jp>

●日本野外教育学会

野外教育を学際領域として位置づけ「自然・人・体験」の3つのキーワードが柱

<http://www.joes.gr.jp/>

●公益社団法人日本環境教育フォーラム

(略称JEEF: Japan Environmental Education Forum)

1987年に清里ミーティングを礎にスタートした環境教育ネットワーク組織

清里ミーティングの主催者 年6回の会報発行

他/環境講座、出版、調査研究、人材育成、国際協力、途上国支援など

<http://www.jeef.or.jp/>

●NPO 法人自然体験活動推進協議会

(略称CONE: Council for Outdoor & Nature Experiences)

平成11年1月から文部科学省の支援を得て発足し、広く自然体験活動の普及に貢献できる仕組みづくりや、より多くの人々との連携をはかるための活動を行なう。

自然体験活動リーダーを目指す方はこちらへお問合せを。

<http://www.cone.ne.jp/>

●NPO 法人持続可能な開発のための教育推進会議

(略称ESD-J: Japan Council on the UN Decade of Education for Sustainable Development)

ESD(持続可能な開発のための教育)を推進してゆくためのネットワーク組織

キーワードは環境、開発、人権、平和、ジェンダーなど多数。

<http://www.esd-j.org/>

●一般社団法人日本アウトドアネットワーク(略称JON: Japan Outdoor Network)

全国の野外事業活動を行なう団体のネットワーク組織

年数回のミーティングとニュースレター

<http://www.jon.gr.jp/>

●NPO法人日本エコツーリズム協会(略称JES: Japan Ecotourism Society)

エコツーリズムの啓発と健全な推進をはかるため、エコツーリズムに関する情報提供や人材の育成などを目的としたNPO法人

<http://www.ecotourism.gr.jp/>

●NPO法人日本エコツーリズムセンター

エコツーリズム推進のために専門家による効果的なアクションを実践する民間機関
コーディネーターや国内各地のエコツーリズム推進団体と協力したネットワークづくり
<http://www.ecotourism-center.jp/>

●一般社団法人日本インタープリテーション協会（略称IP協会）

インタープリテーション、環境教育に関わる団体のネットワーク組織。各種研修や
講師の派遣も行なう主催の研修に「インタープリター・トレーニング・セミナー」がある
<http://interpreter.ne.jp/>

●NPO法人日本森林療法協会

森林を活用した健康づくりに関する情報の収集・提供を行うとともに研究、人材育成、
普及啓発、推進方策の検討・支援を行う。
<http://j.forest-therapy.org/>

●一般社団法人RQ 災害教育センター

東日本大震災の被災地支援のために結成されたボランティア組織
「RQ 市民災害救援センター」から発展して誕生した組織。
<http://www.rq-center.jp/>

●NPO法人開発教育協会

（略称DEAR：Development Education Association and Resource Center）
開発教育を推進するためのネットワークNGO。教育関係者、NGO・NPO、青年海外協力隊
OB・OG、国際機関、国際交流協会、自治体、研究者、学生など幅広い層の人たちが一緒に
「学びの場」づくりに参加し、“世界”と“学びの場”をつないでいる
<http://www.dear.or.jp/>

●公益社団法人青年海外協力協会

（略称JOCA：Japan Overseas Cooperative Association）
開発途上国の人々のために自分の持つ技術や経験を活かし活動してきた青年海外協力隊の帰
国隊員を中心に組織されている、内閣府認定の公益社団法人。OB・OG会をはじめとする多
くの団体とのネットワークを活用し、地域に根ざした国際交流・国際協力を展開。
<http://www.joca.or.jp/>

●一般社団法人CEPA ジャパン

生物多様性をもっと身近に感じてもらうために、「広報・教育・普及啓発(CEPA)」に関する
情報共有・そして推進の場として設立された、環境省が事務局となる「国連生物多様性の10
年日本委員会」の委員でもあり市民で唯一の運営団体。
<http://cepajapan.org/>